

## 宇宙に夢を広げたい

柳 瀬 英 俊

僕は幼いころから、星の美しさに魅せられていた。近くの小高い山に登って夏祭りの花火を楽しんだ後、なごりおしさに再び夜空を見上げると、今まで花火の光に消されて気付かなかったたくさんの星が輝いていた。この時、あの奥の深い星の美しさにひきつけられ、空は、どこまで広がっているのだろうか、宇宙の神秘性を思った。さらに地球の外の世界のことを想像して、宇宙のことに触れてみたいという気持ちが次第にふくらんだ。

科学文化センターのプラネタリウムに行くのも我が家の季節ごとの行事になった。最初に行ったのは、小学生の時だった。その時、星や星座の名前だけでなく、星にも一生があり、星も生まれてだんだん年をとって死んでいくということを初めて知って驚いたものだ。

それから父に図鑑を買ってもらって読んでみると、星だけでなく宇宙にもビッグ・バンという始まりがあって、今、僕達の宇宙はどんどん膨張して大きくなっていることがわかった。また、宇宙には何億光年とか大きすぎて想像もつかないような広がりがあり、ブラックホールのように得体の知れない部分が数多く見られることにも興味を覚えた。

星には、北極星のように一点にとどまって、人々の旅の指針になっているようなものもあれば、ハレー彗星のように人々を不安におとしめたりする動きの速い星もある。一方では、願いをかなえてくれるといわれている流れ星や、神話や昔話に登場するようなロマンチックな星まで本当にいろいろな個性があり、数知れない星それぞれが生き物のように思えてくる。

僕達は、星の海のような銀河、その中の地球という青く美しい星で生まれた。地球に文明が始まった頃、人々は星の動きから季節を知り、種まきや祭りの日を決めていったのだろう。また、旅人は星を目印に方角を決め、旅や航海を続けていったのであろう。我々、人間と星は、はかり知れない距離をもちながら、それでいて案外親しい

間柄のような気がする。

目覚ましい宇宙開発のおかげで、人間が宇宙へ行ける時代がやってきた。近い将来、まるで海外旅行に出かけるような気持ちで、地球を飛び出して行けるかもしれない。そうなったら僕もぜひ行きたいと思っている。

けれども、その中で一つだけ気にかかることがある。それは宇宙人に会えることだ。言葉のちがう宇宙人とどのようにして話をしたらよいだろうか。「そうだ。」古代人のように象形文字を使ったら意志が通じるかもしれない。それともテレパシーで相手の心がわかればコミュニケーションができるだろう。しかし、彼らに人間の常識や真心が通用するだろうか。地球の資源を使いつくして宇宙に飛び出した人間が、宇宙から何かを得ようとばかり考えていたのでは、とうてい宇宙人と仲良くやっていくことは無理だと思う。

かって人間は夜空の星をながめ、宇宙を認識し心の安らぎや希望や物にはかえられない貴重なものをそこから、与えられていたと言えるのではないだろうか。

現代の僕達は、身の回りにいろんな物があふれている。科学の進歩によって物が豊になった分だけ、こころの豊かさも広がっていったのだろうか。

宇宙の星は美しく輝いてその存在を示しているだけでなく、人間が心豊かになればなるほど、いろいろなことを語りかけてくるようになるのではないと思う。星は、見る人の心によって、ただの輝く物体であったり神秘的な力を持つ宝物に変わったりするのかもしれない。

僕は、亡くなった祖母を星に例えたり、いつも僕たちのことを見守ってくれていると考えたりする。そしてある時は優しいまなざしで話し相手になってくれる。幼稚園の頃のように人が亡くなったら星になるなんて話は信じてはいないが、人間の心は弱いものだから、星に勇気づけられたり慰められたりしたいという気持ちが心のどこかにあるのだろう。

僕は宇宙に出かける日が来るまでに、宇宙飛行士のようにトレーニングを積んだ強い体と、宇宙人と理解し合えるような科学だけでなく芸術や道徳も大切にする幅広い心を持ちたい。そうすれば、もし宇宙人に会うようなことがあって、彼らにも僕と同じような心があるとすれば、それはすばらしい出会いになるだろう。

宇宙開発をすすめることによって、宇宙の謎が次々に解明され、宇宙旅行が現実になんげ近づいてくるが、それは単に欲望や好奇心を満足させるためのもてではなく、本当の豊かさを人類にもたらすようなものでなければならないと思う。

やなせ ひでとし（富山市立奥田中学校 1年）

## 「宇宙への夢」作文募集について

毛利護宇宙飛行士が日本人で初めてスペースシャトルで旅立った1992年9月12日を記念して、宇宙開発事業団が9月12日を「宇宙の日」と定め、全国的に様々なイベントを展開しました。

当館では、次世代を担う青少年に、宇宙に大きな関心を持っていただくことを期待して、市内の小中校の各学校に「宇宙への夢」をテーマとした作文を募集したところ、63点の応募がありました。

応募作文は学年に応じて審査して、小中高校別に右記の入賞者を選定し、最優秀賞の3点を宇宙開発事業団に送って、中央審査を受けました。

このうち、富山市立奥田中学校1年、柳瀬英俊君の「宇宙に夢を広げたい」が、宇宙科学研究所所長賞に輝きました。

なお、中央審査では、科学技術庁長官賞、宇宙科学研究所所長賞、宇宙開発事業団理事長賞の各賞ごとに小中高校から1名ずつ入賞し、奨励賞入

賞者6名と共に、毛利護宇宙飛行士との「宇宙ふれあい塾」に招待され、表彰されました。

### 作文コンテスト審査結果

#### 中央審査

宇宙科学研究所所長賞（小中高各1名）

中学生の部 富山市立奥田中学校  
1年 柳瀬 英俊

#### 科学文化センター入賞者

##### 最優秀賞

小学生の部 西野 明彦（奥田小6年）  
中学生の部 柳瀬 英俊（奥田中1年）  
高校生の部 鷹島 あかね（富山高校3年）

##### 優秀賞

小学生の部 林山 智子（星井町小6年）  
馬場 晶子（草島小6年）  
中学生の部 三輪 倫子（堀川中2年）  
光地 正広（呉羽中2年）  
高校生の部 今村 晃（富山高校2年）  
村上 祐一（富山高校1年）

##### 佳作

小学生の部 藤野 智志（西田地方小6年）  
坪島 弘典（長岡小6年）  
宮島 梓（奥田北小5年）  
中学校の部 増田 恵介（月岡中3年）  
笹木 集夢（三成中2年）  
池内 淳一（北部中学校1年）  
高校生の部 中山 愛梨（富山商業高校1年）



「宇宙への夢」作文表彰式（東京科学技術館）で  
賞状を受ける柳瀬君（中央）